

# 途上国における農業経営の変革

調査研究報告書

清水 達也 編

2017年3月

独立行政法人日本貿易振興機構  
アジア経済研究所

調査研究報告書  
地域研究センター 2016-C-01  
[途上国における農業経営の変革]研究会

## はじめに

本報告書は、アジア経済研究所で2016年度から2年間の予定で実施している「途上国における農業経営の変革」研究会の1年目の研究成果である。2000年代後半の国際市場における食料価格の高騰などを契機として、発展途上国において、農業とそれを取り巻く環境が大きく変化している。本研究会では、これらの変化に対応して農産物供給を拡大している経営体に注目し、その農業経営がどのように変化しているかを分析することを目的としている。

これまでの研究によって、途上国における農業の変化について次のことが明らかになった。現在でも多くの国で、比較的小規模な家族経営が農業生産の大きな割合を担っている。しかしこれらの経営体は、自ら所有する生産要素だけで生産しているわけではない。農地は売買や貸借による流動化が進んでおり、一部で規模の拡大もみられる。労働力は、すべてを自らで行うのではなく、農業機械とオペレーターを所有する農作業受託組織への委託が増えている。資本についても、農業以外からの流入が増えている。このほかにも、農業生産を担う経営体は、投入財の調達や農産物の販売のために、契約などを通してほかの経済主体との関係を深めている。公的部門も、農業生産の拡大とそれを担う経営体を支援するために、生産要素市場の拡大やほかの経済主体との連携を促す政策を進めている。

本研究会の実施にあたっては次の方々のお力をお借りした。筑波大学大学院生命環境科学研究科の納口るり子教授には、日本農業の担い手の構造変化と、農業経営への異業種の参入について具体的な事例を交えて講義をしていただいた。また、東京大学大学院新領域創成科学研究科の鈴木綾准教授には、途上国における高付加価値農水産物の生産者と流通構造について、ガーナ、エチオピア、ベトナムの事例の研究成果について話をいただいた。このほか、アジア経済研究所新領域研究センター大塚啓二郎上席主任調査研究員には、途上国の契約農業に関する既存研究について話をいただいた。ご協力をいただいた方々に深くお礼を申し上げます。このほか研究会にオブザーバーとして参加し、議論を深めてくれたアジア経済研究所の同僚である坂田正三、児玉由佳の両氏にも感謝したい。

なお本研究会は、2015年に実施した基礎理論研究会をもとにしている。この研究会の成果（[清水達也編 2016「途上国農業の新たな担い手」](#)）も合わせて参照していただきたい。

2017年3月

編者

## 執筆者

清水 達也	アジア経済研究所地域研究センター 主任調査研究員
寶劔 久俊	アジア経済研究所開発研究センター ミクロ経済分析研究グループ研究員
山田 七絵	アジア経済研究所新領域研究センター 環境・資源研究グループ研究員
塚田 和也	アジア経済研究所開発研究センター ミクロ経済分析研究グループ研究員
荒神 衣美	アジア経済研究所地域研究センター 東南アジアⅡ研究グループ研究員
辻 一成	佐賀大学農学部 准教授
谷 洋之	上智大学外国語学部 学部長・教授
伊藤 成朗	アジア経済研究所開発研究センター ミクロ経済分析研究グループ長

## 目次

第1章 中国農業の構造調整と新たな担い手の展開	寶劔 久俊	1
第2章 中国の新たな農業経営モデルの特徴と存立条件	山田 七絵	33
第3章 タイの稲作農業における経営規模分布：機械化と農業サービスの影響	塚田 和也	54
第4章 ベトナムにおける農業経営：外部環境変化との接点	荒神 衣美	69
第5章 ベトナムにおける農業投資環境と日系農企業の事業戦略の変化：ラムドン省を事例に	辻 一成	80
第6章 メキシコにおける農業とそれを取り巻く環境の変化	谷 洋之	92
第7章 拡大するブラジルの穀類生産と企業的家族経営	清水 達也	112
第8章 最低賃金規制と農業経営	伊藤 成朗	136

調査研究報告書  
地域研究センター 2016-C-01  
[途上国における農業経営の変革]研究会

---

---

2017年3月31日発行  
発行所 独立行政法人日本貿易振興機構  
アジア経済研究所  
〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉 3-2-2  
電話 043-299-9500

無断複写・複製・転載などを禁じます。

---

---